

夏季教養講座開催



【竹田恒泰氏】

令和7年8月22日
ホテルプリムローズ大阪にて、近畿管内の警察職員幹部83名を対象に「令和7年度夏季教養講座」を開催した。開講式にて、共催の村田達哉近畿管区警察局長の挨拶の後、2名の講師による講演が行われ、受講者は熱心に聴講した。閉講式にて当会の中川喜博理事長が挨拶を述べた。



公益財団法人
近畿警察官友の会

竹田恒泰氏
作家

「誇り高き日本の未来」

まず警察官に対する感謝を述べたあと「誇り高き日本の未来」というテーマについて竹田氏の視点で一つでもお役にたてる話ができればと講演にはいられた。

今、世界は短期間で変化し、世界中の人々が不安定なところにいる。日本の未来に対し関税・円安・外交上の主導権の低下などで長期的な衰退に入っていくのではないかという暗い空気がある中、私は、まだまだ日本は捨てたものではない、いくらでも輝く未来とすることができると私は私たちの心もち一つにかかっていると考えている。

私は昭和50年生まれで、ほぼ高度成長を達成し、豊かな日本に生まれ育った。日本の力や魅力はたくさんあるが、その一つに経済大国ということがある。しかしそれはもはや当たり前になって、そのすごさや

●本号の目次●

- 「夏季教養講座」開催 1～4頁
- 理事会・評議員会報告 5頁
- 令和6年度事業報告・決算 5・6頁
- 令和7年度補正予算 6頁
- 役員一覧他 7・8頁

ありがたさを忘れがちである。

GDPベースではアメリカ、中国について第3位である日本の経済規模は依然とんでもない大きさである。そのすごさを表せば、コロナ禍前の数字ではあるが、大阪府の域内総生産は国連加盟国193カ国中第31位に相当し中堅国家のノルウェーと同等である。為替にもよるがASEAN全体のGDPは日本の半分以下で、ロシアは1/5、北朝鮮に至っては1/370という規模である。その経済力は未来につなげていくべき価値である。但しその功績は先人たちの血のにじむような努力によるものである。

江戸時代までは日本は人口こそ多いものの産業力、工業力がほぼない弱小国であった。嘉永6年ペリー艦隊4隻に開国を迫られ、一戦を交えれば江戸や大阪は火の海になるという状況のなか、「ここは悔しいけれど言いなりになろう。開国を逆手に日本人が作った品質の良い製品を世界に売りさばき、経済力を蓄え、インフラを整え、一流の軍隊をもって富国強兵を成し遂げ、再びペリーのような輩が現れて

昨今は凶悪な犯罪が相次ぎ、悲惨なテロも他人事ではなくなりました。私たち市民は、「安全で安心して暮らせる社会」を望んでいます。公益財団法人近畿警察官友の会はその社会の実現のため、日夜業務に従事している近畿各地の警察官を支援しています。

も次こそは打ち払おう」という決意の建議が出された。幕末の段階ですでに産業革命の終盤にかかっていた欧米を訪れた咸臨丸の視察団は、うかうかしていると本場に日本は国を取られてしまうと危機感を持ち帰った。早く近代化と富国強兵を成し遂げないと日本という国は残らないという危機感の中で日本人は必死に働いた。ちなみに第二次世界大戦開戦時点においてアジア全域で独立を保っていたのは日本とタイのみであった。

絹糸、布、陶磁器、浮世絵、刀剣、日本茶などの輸出により、明治に入ってから日本の経済力は躍進を遂げた。大正10年、我が国は第一次大戦に参加し、戦勝国となった。国際連盟の常任理事国となり世界5大国の一員に加わった。軍勢力、経済力のみでなく憲法、議会、選挙、法律による国家運営を行うという近代化をアジアで最初に成し遂げた。しかしその後、先の大戦ですべてを失った。日本の経済力は地に落ち、

ほとんどのインフラが破壊され、瓦礫の処理から始めるマインズの状況からの再出発となったが、わずか数10年の間で世界2位の経済大国になった。今3位になったとはいえまだ経済力を維持しているが、今後の動向は今の時代に生きる私たちにかかっている。

150年前、日本は弱小国であった。世界中には同様の弱小国が数多くあり、それぞれが経済力を高めるため努力を重ねたが、経済大国になれたのは日本だけである。日本を最近抜いた中国は日清戦争までは数千年にわたっての最大の経済大国であった。ではなぜ日本はそれが可能だったのか？もちろん努力もしたが、それだけではないところに日本の魅力、力があると私は思う。それは日本人が他者のために生きる喜びを共有してきた人々ということである。衣食足りて礼節を知るというのが世界の常識であるが、日本にはたとえ衣食足りずとも礼節だけは欠いてはならないといった価値観がある。外国から見たら当たり前ではない価値観が日本の成長に大きな役割を果たしたと私は思っている。

そしてそれが人の道として正しい生き方だと子供のうちから親から教わってきている。

世のため人のために役立つためには、勉強し、職業を身に付け、知能を啓発し、徳のある人間になってそれを世のため人のために使いなさいと書いてあるのが教育勅語である。これは天皇や国家の命令ではなく、一人一人のご先祖様の生き方だからと子供たちに教えているわけである。

そして幸せになりたかったら私利私欲をすることである。マイクロソフト創業者のビル・ゲイツは少年時代お金があれば幸せになれると考えていたが、世界一の金持ちになった時、それは間違いであったと気づいたそうだった。しかし日本人は、このことを幼少のころからお金の大切さと限界とともに親からの教育で知っている。幸せな人生とは、歳を重ね死ぬときに立派でいい人生だったと振り返れることで、世のため人のために生きた人が惜しまれながら死んでいく、そういう生き方が実は幸せな人生を生きるということだと親から習っている。1億2千万人の

国民が、家族、地域、組織、国家、世界のために何ができるか考えて日々暮らせば、素晴らしい国になるだろう。皆様警察の職員はもとより、一般私企業に就職した人もその気持ちをもって働いているはずである。それが日本の力である。そういう気持ちを持ってモノづくりをしたら必ずいいモノができるはずである。今不安定な時代だからこそ、この精神が日本人にとっての宝であり、その気質を若い世代に伝えていくことが、今私たちにできることではないか。

日本は「和」の国というが、「和」とは、「自己の主体性を保ちながら他者と協調すること」と孔子が言っている。

この「和」を理解するために我が国の建国の経緯をたどってみると、古墳時代の初期、3世紀初頭には百ぐらいの小国が分立していたが、4世紀末には戦争を経ずに百カ国が大和国に統合されたという事実が考古学の調査により証明されている。大和は軍事力で諸国を制圧するのではなく、農具の分配により協力関係を築き、宗教の自由を認め、血縁関係を広げていく

ことで統合を果たしていった。私たち日本人は家族、日本列島は私たちの住む家、皆が平和になるような皆が幸せに生きられるような、そんな社会をつくろう。これが神武天皇の八紘為宇という我が国の建国の理念である。「和」の精神を重んじていた日本人が国家を造ろうとしたからこそ、地域ごと独自の文化があり、話し合いでおよそ百の国が統合し、1600年間の地域ですら独立運動がおきなかった稀有な国家となった。最初経済力の話から始めたが、日本の魅力は物質ではなく一人一人に宿る精神にある。

個性的で豊かな精神文化と全体としての安定と調和の両立は、他者から学び取り入れるという姿勢がないと成り立たない。聖徳太子の時代の遣隋使以降、外から学ぶところは学び、取り入れるものとは入れないものを取捨選択し、変えるべきところは変えてより良いものに作り変えていった。それはお互いを尊重する「和」の精神があるからこそできたと考ええる。先の大戦後、マッカーサー元帥が昭和天皇と初めて会った時、「この戦争の



【夏季教養講座の様様】

すべての責任は自分にあり、自分の命はどうなっても構わないから国民を救って欲しい」という天皇の言葉に感激、神のような帝王の姿を見たという言葉を残している。その姿に日本人は家族であり、日本列島は私たちの家だという建国の理念そのものの姿を見たのではないか。

最後に崇高な志を持って警察の仕事を選んだ皆様が誇り高いその職務を全うされることで、世のため、人のため使命感を持って働く姿に若い人たちが接し、それが日本人全体を必ずいい方向へ導いていくことになる。私は思っている。日本の警察組織に私は誇りを持っている。どうぞこれからも誇りをもって職務にまい進していただきたいと述べ話しを終えられた。



【小原克博氏】

小原克博氏

同志社大学学長

「一神教とは何か」

冒頭、警察職員の聴講者に向け、自らが小学生のころ、地元警察署の剣道教室で指導を受けた経験を紹介し講演をはじめられた。

日本社会にとっての一神教

日本では「一神教」と「多神教」が対比的に語られることが多いが、その理解には虚実が入り混じっている。イスラームに関しては「危険」「テロ」といったステレオタイプが強調されて浸透しているが、実際には大多数のイスラーム教徒は信頼できる真面目な人々である。一神教は排他的・独善的・好戦的・自然破壊的であるのに対し、多神教は寛容・協調的・友好的・自然共生的という観念で語られがちである。しかし、こうした二項対立的な図式は学問的根拠に乏しく、現実を大きく歪める。歴史的にも、日本では江戸期のキリシタン禁制

により、実際のキリスト教徒と接する機会のない人々の間で「邪教」「邪宗」といった恐怖のイメージが広まった。直接触れたことのない対象に恐れや否定的感情を抱くのは人間の性質であり、この偏見を克服するためには宗教リテラシーが不可欠である。

一神教に関わる私の経験から

1989～91年、私はドイツに留学し、冷戦末期からベルリンの壁崩壊、東西統一を現地で体験した。永遠に存在すると思われた壁が自由を求める声によって崩壊するのを目の当たりにし、「歴史は変わり得る」という感覚を強烈に味わった。しかし統一後には経済格差に起因する移民への差別や暴力が発生し、不満が移民に向けられる現実も体験した。これはヨーロッパだけでなく、日本社会でも起こり得る問題である。

2001年の米国同時多発テロでは「イスラームとキリスト教世界の全面戦争」や「文明の衝突」といった言説が広がった。私は留学時にキリスト教を中心に学びながらも、イスラームやユダヤ教を学ぶ機会を得ており、その経験から、特定宗教だけでなく宗教間のコンフリクト全体を俯瞰する研究の必要性を痛感した。

この経験を踏まえ、2003年に

「一神教学際研究センター」を設立し、同志社大学での授業も展開してきた。その中では、頑固なファンダメンタリスティックキリスト信者や過激なイスラーム主義者、タリバン関係者といった、通常は出会わない人々を交えた対話の場を積極的に設けた。その一例として、アフガニスタン政府高官とタリバンのメンバーを京都に招き、国を離れた場で意見交換を行い、同じ鍋を囲んで国の将来を語り合う機会を作った（講演では写真を紹介）。

アメリカには、力で制圧するのではなく、和解や対話を促す方向で統治を進めてほしかったと考えている。グローバルにビジネスや交流を進める上でも、その社会の価値観の核にある宗教や信仰に対するリスペクトとリテラシーが不可欠である。

一神教の過去・現在・未来

ユダヤ教・キリスト教・イスラームはいずれも中東の小さな地域で誕生した。現在はイスラエルとパレスチナの紛争が深刻化しているが、歴史的には三宗教は共存して

きた。ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共通の祖アブラハムに由来する「兄弟宗教」であり、ヘブライズムやギリシャ思想（ヘレニズム）の影響を共有している。中東は長らく学問・文化の中心であり、医学・天文学・数学などの知識は中東からヨーロッパに逆輸入された。

しかし近代以降、西洋列強の植民地主義が中東を支配し、宗教対立は激化した。イスラエル建国とパレスチナ問題はその象徴であり、2001年の同時多発テロにもつながった。現代世界では、キリスト教徒

約23億、イスラーム教徒約20億で両者が世界人口の過半数を占める。ヒンドゥー教約12億、仏教約3億、ユダヤ教約140万が続く。

日本では一神教徒は1〜2%にすぎないが、国際社会では一神教が人々の価値観の中心にある。さらに人口動態を考慮すると、イスラーム人口は増加傾向にあり、2070年にはキリスト教を上回ると予測される。

ユダヤ教とその社会

ユダヤ人はナチスによるホロコーストで大きく人口を減らした

が、学問・芸術・金融の世界で大きな影響力を持つ。モーセ五書（旧約聖書）に基づく信仰をもち、古代にはパレスチナに居住していたが、1世紀にローマ帝国に敗北後、離散の民（ディアスポラ）となった。迫害や差別による職業制限のため金融業に従事することが多く、それが現在の状況にもつながっている。19世紀のシオニズム運動からホロコーストを経てイスラエル建国に至った。ユダヤ教からは「安息日」というリセットの有効性を学ぶことができる。

キリスト教とその社会

キリスト教は西洋的価値観の基盤を形成している。欧米では信者数が減少傾向にあるが、アジアやアフリカでは増加している。教派や思想は多様で、保守からリベラルまで幅広い。そのためしばしば対立が生じ、アメリカでは中絶、同性婚、銃規制、移民などをめぐって大統領選ごとに論争が起こり、キリスト教系政治団体が深く関わっている。ただし親イスラエルという点では党派を超えて一致している。

イスラームとその世界

イスラームは、預言者ムハンマドが打ち立てた慣行・規範を重視するスンナ派（約85%）と、血統を重視し指導者を神格化するシーア派（イラン・イラク中心、約15%）に大別される。信者は「アッラーのほかに神はなく、ムハンマドは神の使徒である」と唱えることで入信でき、六信五行を信じ実践することが求められる。生活全般にわたる指針を示すシャリーア（イスラーム法）や、断食月ラマダーンは共同体意識と信仰を強める役割を担っている。

中東情勢はイラク戦争（2003年）、アラブの春（2011年）、ガザ・イスラエル紛争（2023年）によって変動を繰り返している。欧州におけるムスリム人口は全体の約5%だが増加傾向にあり、フランスでは約9%に達している。これに伴い移民排斥を掲げる極右政党が躍進し、ドイツでも同様の現象が見られる。また自国で生まれ育った若者がテロに走るケースも増え、そうならないための支援体制づくりが始まっている。

おわりに 争い・分断との向き合い方

日本社会は「争いを避ける集団道徳」を持ち、それは良い面もあるが、同調圧力が強く異議申し立てが困難になりやすい。現代社会は二項対立的に語られる局面が多く、争いを激化させないためには対立集団を仲介する存在が必要だが、それが難しい時代である。戦後の日本では公教育から宗教教育を排除した結果、宗教的無知が広がり、オウム真理教のような危険な信仰に対する感受性が弱まった。これを防ぐには、「信じること」と「疑うこと」を両立させる宗教リテラシー教育が不可欠であると述べ、質疑のあと、拍手をもって講演を終えられた。



【閉講式での中川理事長】

理事会・評議員会報告

- 第45回理事会（決議の省略）**

中川理事長が決議の省略により次の議案を提案し、10月4日に理事会の決議があったものとみなされた。

◇第1号議案

「奈良県支部副支部長2名の選定」の件

◇第2号議案

「支部運営委員7名の選任」の件
- 第46回理事会**

開催日 令和7年3月10日

場所 KKRホテル大阪

出席理事9名が次の議案等を審議し、原案どおり承認された。

◇第1号議案

「主たる事務所（事務局）移転の承認」の件

◇第2号議案

「令和7年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件

◇報告事項

職務執行状況の報告について

「夏季教養講座」について

当会の現況報告について
- 第47回理事会**

開催日 令和7年5月29日

場所 KKRホテル大阪

出席理事7名が次の議案等を審議し、原案どおり承認された。

◇第1号議案

「令和6年度事業報告及び附属明細書の承認」の件

◇第2号議案

「令和6年度計算書類及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件
- 第18回評議員会**

開催日 令和7年6月16日

場所 ホテルプリムローズ大阪

出席評議員10名が次の議案等を審議し、原案どおり承認された。

◇第1号議案

「令和6年度事業報告及び附属明細書の承認」の件

◇第2号議案

「令和6年度計算書類及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件

◇第3号議案

「理事3名の選任」の件

◇第4号議案

「定款の一部変更」の件

◇第5号議案

「報酬規程の一部変更」の件

◇第6号議案

「令和7年7月以降の監事に対する報酬額決定」の件

◇報告事項

第44回、第45回理事会（決議の省略）、第46回、第47回理事会の決議内容について

第48回理事会（決議の省略）の提案書について

「夏季教養講座」について

当会の現況報告について

令和6年度 事業報告及び決算について

- 事業の概要**

1 当会最大の催し「近畿優良警察職員に感謝の会」を開催した。

2 各府県支部活動は計画通り実施した。

3 会報「けいさつの友」を2回発行した。

4 「夏季教養講座」は、2名の講師を招き開催した。

5 近畿管区警察局主催の術科大会にメダルと楯を寄贈した。

会員数の推移

	令和6年3月31日	令和7年3月31日	比較
個人会員	444名	343名	－101名
法人会員	180社	167社	－13社
地区会員	78地区	77地区	－1地区

- 第48回理事会（決議の省略）**
- 中川理事長が決議の省略により次の議案を提案し、6月16日に理事会の決議があったものとみなされた。
- ◇第1号議案
- 「奈良県支部長の選定」の件
- ◇第2号議案
- 「支部運営委員1名の選任」の件
- ◇第3号議案
- 「令和7年度第一次収支補正予算書（案）の承認」の件
- ◇第4号議案
- 「令和7年7月以降の常勤理事の報酬額決定」の件

☆正味財産の増減について(令和6年4月1日～令和7年3月31日 単位円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	803	397	406
② 特定資産運用益	428	8	420
③ 受取会費	29,209,500	30,174,500	△ 965,000
④ 受取寄付金	2,700,000	3,234,000	△ 534,000
⑤ 雑 収 益	99,228	122,198	△ 22,970
経常収益計	32,009,959	33,531,103	△ 1,521,144
(2) 経常費用			
① 事 業 費	21,721,646	21,630,789	90,857
② 管 理 費	8,932,397	8,654,625	277,772
経常費用計	30,654,043	30,285,414	368,629
当期経常増減額	1,355,916	3,245,689	△ 1,889,773
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,355,916	3,245,689	△ 1,889,773
一般正味財産期首残高	51,961,482	48,715,793	3,245,689
一般正味財産期末残高	53,317,398	51,961,482	1,355,916
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	53,317,398	51,961,482	1,355,916

☆令和7年度収支補正予算について(令和7年4月1日～令和8年3月31日 単位円)

科 目	令和7年度補正予算	令和6年度実績	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益	803	803	0
② 特定資産運用益	700	428	272
③ 受取会費	27,505,000	29,209,500	△ 1,704,500
④ 受取寄付金	2,100,000	2,700,000	△ 600,000
⑤ 雑収益	100,000	99,228	772
経常収益計	29,706,503	32,009,959	△ 2,303,456
(2) 経常費用			
① 事 業 費	24,424,568	21,721,646	2,702,922
② 管 理 費	9,100,657	8,932,397	168,260
経常費用計	33,525,225	30,654,043	2,871,182
当期経常増減額	△ 3,818,722	1,355,916	△ 5,174,638
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,818,722	1,355,916	△ 5,174,638
一般正味財産期首残高	53,317,398	51,961,482	1,355,916
一般正味財産期末残高	49,498,676	53,317,398	△ 3,818,722
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	49,498,676	53,317,398	△ 3,818,722

公益財団法人近畿警察官友の会 役員等一覧

(敬称略)

理事

理事長・代表理事	中 川 喜 博	(株) 阪急阪神ホテルズ 特別顧問	
副 理 事 長 大阪府支部長	延 原 健 二	延原倉庫(株) 代表取締役社長	
滋賀県支部長	土 沢 健 一	(株) ナツハラ 取締役会長	
兵庫県支部長	桑 田 純 一 郎	但陽信用金庫 理事長	
奈良県支部長	小 山 新 造	小山(株) 取締役会長	新任
和歌山県支部長	山 名 正 一	社会保険労務士法人 Office やまな 代表社員	
理 事	江 浦 保	(株) 江浦製作所 取締役会長	
理 事	藤 尾 政 弘	(株) フジオフードグループ本社 代表取締役社長	
理 事	脇 博 一	(一社) 比叡山・びわ湖DMO 顧問	新任
理 事	中 沢 正 和	大阪ガス(株) 顧問	新任
専 務 理 事	日 下 勝 之	当財団 事務局長	

森本俊一氏、渡部隆夫氏、中村剛氏は辞任されました。

監事

北 岡 慎 吾	北岡公認会計士事務所 所長
上 将 倫	弁護士法人松尾・中村・上法律事務所 代表社員

評議員

中 堀 佐 一 郎	滋賀特機(株) 取締役会長	
草 野 丈 治	(株) 草野組 会長	
中 川 廣 司	(株) 高速産業 代表取締役会長	
内 田 順 之		
北 川 忠 嗣	東大阪石油(株) 代表取締役	
松 本 壽 満	(株) マツモト 代表取締役会長	
竹 位 賢 二	(株) フジヤ號 取締役会長	
齋 藤 昭		
中 井 隆 男	大和ガス(株) 相談役	
畑 野 富 雄	畑野産業(株) 取締役顧問	
成 川 守 彦	(医) 千徳会 会長	

小山新造氏は辞任され理事に就任されました。

相談役

小 嶋 淳 司	(株) GANKO 社主
---------	--------------

☆新理事紹介（敬称略）

小山新造 理事 奈良県支部長

小山（株）取締役会長



昭和17年生まれ

脇博一 理事

（一社）比叡山・びわ湖DMO顧問



昭和25年生まれ

中沢正和 理事

大阪ガス（株）顧問



昭和39年生まれ



【当会寄贈のメダルと楯】

令和7年8月5日、堺市の近畿管区警察学校にて令和7年度近畿管区内警察 柔道・剣道大会が挙行され、各府県の代表選手たちが技を競いました。当会からは、優勝者に記念のメダルを、大会功労者には記念の楯を、中川理事長から授与いたしました。

10月以降の行事予定

開催日	行事名	場所
10月15日(水)	近畿優良警察職員に感謝の会	KKRホテル大阪
10月28日(火)	和歌山県優良警察官表彰式	ホテルアバローム紀の国
11月7日(金)	第48回奈良県警察優良警察官表彰式	ホテルリガーレ春日野
1月30日(金)	大阪府警察優良警察官・民間警察協力功労者表彰式	ホテルプリムローズ大阪

発行所 公益財団法人近畿警察官友の会
〒540-0022
大阪市中央区谷町三丁目一番十一号
大晋第二ビル 二〇五号室
電話 〇六-六九四一-七六三八
FAX 〇六-六九四一-七六四一
編集兼発行人 日下 勝之
印刷所 (株)新聞印刷

「公益財団法人近畿警察官友の会」の詳細な決算及び活動については、当財団のHPをぜひご覧ください。会報もご覧いただけます。

<https://www.kk-tomo.com/>

夏季教養講座の小原講師の講演用レジュメも掲載しております。新着情報「令和7年度夏季教養講座開催」のページよりご覧ください。